

中期計画 総点検

■ 8 ■

耐火物や工業炉の生産を手掛ける美濃窯業（本社名古屋市）は、2028年3月期までの3力年の中期経営計画で、最終年度の売上高目標を175億円、営業利益21億円に設定している。25年3月期実績比で売上高は16

・2%増を計画。営業利益は33・2%増と現状比で3割以上の伸びを狙う。利益率の伸びを重視する太田滋俊社長は「事業ポートフォ

利益率に課題

課題となるのが、セメン

美濃窯業

骨子

28年3月期に売上高
175億円
営業利益21億円
純利益15億円

耐火物は国内シェアで4割を占める。同事業の売上高は25年3月期に前期比3・2%増と増収を達成したものの、事業の先行きはセメント業界の生産減に伴い、市場縮小が避けられない。25年3月期のセグメント別の営業利益率では、工業炉などを扱うプラント事業が14・5%、建材及び舗装用材事業は8・4%に対し、耐火物セラミックス事業の営業利益率は5・5%と、やや見劣りする。セメント向け耐火物の利益率の低さが足を引っ張る。

このため、新中期経営計画では「耐火物事業から耐火物セラミックス事業への脱皮」を掲げる。「106年間磨いた技術力がある。この技術を生かす」（太田社長）とし、セメント市場



電子部品や半導体産業向けに拡販を見込む「キルンファニチャー」

また電子部品メーカー向けでは、ファインセラミックス向けガス焼成炉も製造しているうえ、耐火物もある。このため同社は焼成炉の設計から耐火物である炉材、キルンファニチャーまでワンストップで提供できる世界でもユニークな特長を持つ。この特長をフルに生かして提案していくことで、着実な受注獲得を目指す。

セラミックス向け伸長へ

28年3月期 売上高175億円狙う

ト向けの耐火物事業。セメント向け耐火物を含む「耐火物セラミックス事業」は、売上高全体の4割を占める最大事業で、セメント向け

向け以外の耐火物のシェアアップや国内外のセラミックス分野を伸ばす考えだ。

成長市場向け

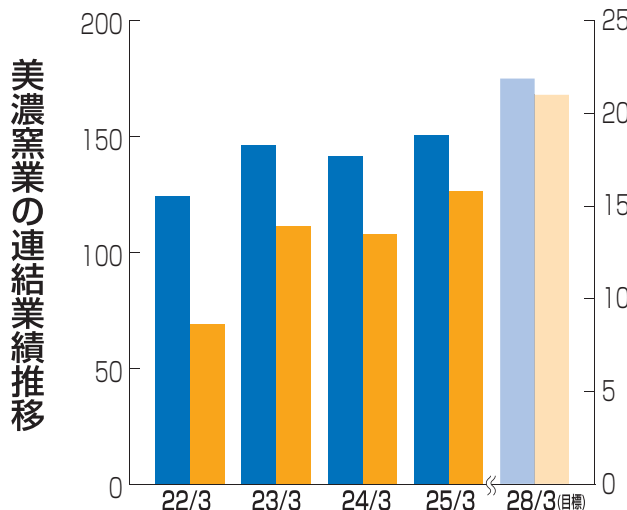
セラミックス分野の成長エンジンの一つとして期待しているのが、成長市場である半導体や電子部品メー

カー向けのセラミックス製のサポーター材や工業炉の事業。「キルンファニチャー」と呼ぶセラミックス製のトレイなどといった焼成時に使用する部品を同社では手掛ける。

これにより耐火物セラミックス事業の利益率を改善。さらに電子部品以外の新規分野でも、工業炉のリースサイクル分野への進出などもくろみ、飛躍を図る。

（鈴木隆宏）

■ 売上高(左軸) ■ 営業利益(右軸)
※単位:億円



美濃窯業の連結業績推移

